

拓務大臣 大谷 尊由



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

昭和十三年六月二日

音。具。一。次。對。閣。議。之。後。了。
以。閣。議。之。決。定。前。一。次。對。閣。議。之。決。定。由。
新。任。務。大。會。五。次。一。次。對。閣。議。之。決。定。由。
昭和十三年六月二十六日 日本書士

六三號



勅令第四百十八號

日本產金振興株式會社法ハ昭和十三年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

昭和十三年法律第三十六號ヲ以テ公布セラレタル日本産金振興株式會社法ノ施行期日ヲ定ムル必要アルニ由ル

参照

日本産金振興株式會社法案

昭和十三年三月
法律第三十六號

(總理大藏、商工、拓務、
內務大臣副署)

日本產金振興株式會社法

第一章 總則

第一條 日本產金振興株式會社ハ產金事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條 日本產金振興株式會社ハ其ノ本店ヲ東京市ニ、支店ヲ京城府ニ置ク

日本產金振興株式會社ハ前項ノ外政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條 日本產金振興株式會社ノ資本ハ五千萬圓トシ内二千五百萬圓ハ政府ノ出資トス

日本產金振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第四條 日本產金振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第五條 日本產金振興株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニ

限り之ヲ所有スルコトヲ得

第六條 日本産金振興株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 日本産金振興株式會社ニ非ザルモノハ日本産金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員

第八條 日本産金振興株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 社長ハ日本産金振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ三年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

第十一條 社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 營業

第十二條 日本產金振興株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 金鑛ヲ目的トスル鑛業若ハ砂金ヲ目的トスル砂鑛業(以下金鑛業ト總稱ス)、金製鍊業又ハ金鑛業若ハ金製鍊業ノ用ニ供スル器具機械類ノ製造業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資
- 二 金鑛業又ハ金製鍊業

三 金鑛業又ハ金製鍊業ノ爲必要ナル器具、機械、材料又ハ設備ノ賣買

四 含金鑛產物ノ賣買

五 委託ニ依ル金鑛山ニ關スル調査又ハ鑑定

日本産金振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十三條 日本興業銀行、朝鮮殖産銀行又ハ東洋拓殖株式會社ハ前條第一項第一號ノ事業ニ

關シ日本産金振興株式會社ノ業務ノ一部ヲ代理スルコトヲ得

日本産金振興株式會社前項ノ銀行又ハ會社ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四章 産金振興債券

第十四條 日本産金振興株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限り産金振興債券ヲ發行スル

コトヲ得

産金振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十五條 産金振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十六條 政府ハ産金振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十七條 産金振興債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十八條 産金振興債券ノ所有者ハ日本産金振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十九條 日本産金振興株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十四條ノ制限ニ依ラズ産金振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊産金振興債券ヲ償還スベシ

第五章 準備金

第二十條 日本産金振興株式會社ハ毎營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツ

ベシ

第六章 監督及助成

第二十一條 政府ハ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十二條 日本産金振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十三條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十四條 日本産金振興株式會社ハ毎營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十五條 政府ハ日本産金振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ産金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ日本産金振興株式會社監理官ヲ置キ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 日本産金振興株式會社監理官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本産金振興株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十八條 政府日本産金振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處

分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 日本産金振興株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第三十條 日本産金振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間ヲ限り之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ初營業年度ヲ除キ每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル額及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル産金振興債券ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

初營業年度及爾後五年間ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第三十一條 日本產金振興株式會社ノ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外

ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十二條 日本産金振興株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間日本産金振興株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 罰則

第三十四條 日本産金振興株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行

ヒ若ハ代理スル副社長ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又ハ理事ノ分掌業務ニ係
ルトキハ副社長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第十二條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第十四條ノ規定ニ違反シ産金振興債券ヲ發行シタルトキ

四 第十九條ノ規定ニ違反シ産金振興債券ノ償還ヲ爲サザルトキ

五 第二十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第三十五條 日本産金振興株式會社ノ社長、副社長及理事第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ
ハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條 第七條ノ規定ニ違反シタル者八十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本産金振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理

セシム

第四十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控

除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十二條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號

及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十三條 設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受

クベシ

第四十四條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遅滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシム

ベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遅滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十五條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

シ

第四十六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本産金振興株式會社社長ニ

引渡スベシ

第四十七條 本法施行ノ際日本産金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社

ハ本法施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十六條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第四十八條 登録税法第六條第一項第十一號中「又ハ燃料興業債券」ヲ「燃料興業債券又ハ産金振興債券」ニ改ム

第四十九條 金資金特別會計法第四條中「又ハ國債」ヲ「國債、産金振興債券又ハ總額二千五百萬圓ヲ限り日本産金振興株式會社株式」ニ改ム

閣甲一四七

昭和十三年五月三十一日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年五月廿一日
昭和十三年六月三十日
公布

濟

内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

友

遞信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

別紙内閣總理大臣請議明治三十九

年勅令第百四十二號中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局閣第九五号

五月卅日



擔任 日下部殖産課長

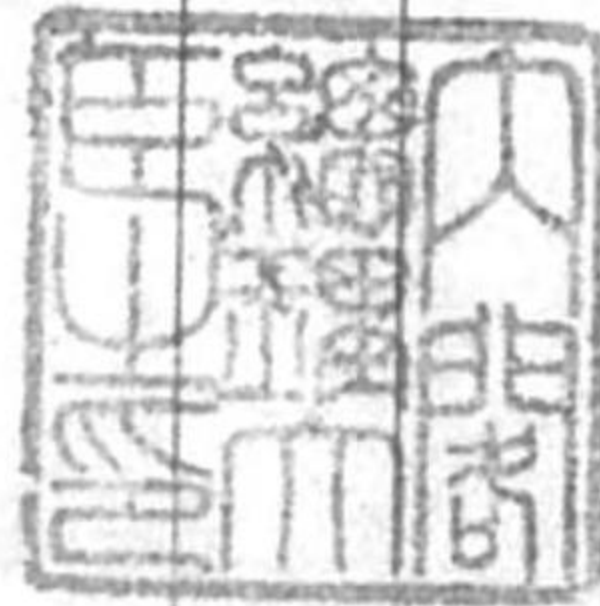
滿殖第四一七號

明治三十九年勅令第四百四十二號中改正ノ件

南滿洲鐵道株式會社ノ副總裁一人増員ノ爲明治三十九年勅令第四百四十二號中改正ノ必要ヲ認ム仍而別紙勅令案ヲ提出ス
右閣議ヲ請フ

昭和十三年五月三十日

内閣總理大臣公爵 近衛文麿



内閣總理大臣公爵 近衛文麿 殿

本件 昭和十三年六月二十日公布
相成度

法制局



内閣官房總務課

御中

日

月

朕明治三十九年勅令
會社ニ關スル件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

昭和十三年六月十八日

内閣總理大臣

勅令第四百二十三號

内
閣

明治三十九年勅令第四百四十二號中左ノ通改正ス

第七條中「副總裁一人」ヲ「副總裁二人」ニ改ム

第八條第二項ヲ左ノ如ク改メ同條第三項ヲ削ル

總裁事故アルトキハ副總裁ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノト
キハ其ノ職務ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

社業ノ發展ニ伴フ業務量ノ増加ニ鑑ミ

南滿洲鐵道株式會社ノ副總裁一人増員スルノ必要アルニ依ル

參照

○南滿洲鐵道株式會社ニ関スル件

明治三十九年六月
勅令第百四十二號

(總理、通信
大臣副署)

第七條 會社ニ總裁一人副總裁一人理事四人以上監事三人乃至五人ヲ置ク

第八條 總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

總裁及副總裁事故アルトキハ政府ハ理事ノ一人ヲシテ總裁ノ職務ヲ代理セシム

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス



事變後滿鐵社債發行額調

昭一三五二八

| 年度別 | 總額 | 内 | |
|-------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | | 新規分 | 借替及償還分 |
| 昭和七年度 | 七九七〇〇 <small>千圓</small> | 四〇〇〇〇 <small>千圓</small> | 三九七〇〇 <small>千圓</small> |
| 同八年度 | 一四五〇〇〇 | 五〇二〇〇 | 九四八〇〇 |
| 同九年度 | 一六〇〇〇〇 | 一六〇〇〇〇 | |
| 同十年度 | 一〇五〇〇〇 | 一〇五〇〇〇 | |
| 同十一年度 | 二二五〇〇〇 | 一二五〇〇〇 | 一〇〇〇〇 |
| 同十二年度 | 五六〇〇〇 | 四一〇〇〇 | 一五〇〇〇 |
| 同十三年度 | 五〇〇〇〇 | 五〇〇〇 | 四五〇〇〇 |

備考 昭和十三年度ハ現在迄ノ実績ナリ、尙十三年度豫算ニ於ケル社債發行豫定額ハ二三五〇〇〇千圓、返還豫定額六六一二五千圓、新規發行豫定額一六八八七五千圓ナリ

昭和七年度以降滿鐵營業收支一覽表

| 年度別 | 收 入 | 支 出 | 差引利益金 |
|--------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 昭和七年度 | 二四五九四〇六七四 <small>圓</small> | 一八四六五二九五〇 <small>圓</small> | 六二二八七七二五 <small>圓</small> |
| 同 八年度 | 二四八〇〇一七一七 | 二〇五〇八一六三 | 四二九二〇五五四 |
| 同 九年度 | 二七〇六六九二〇五 | 二二四二〇一七四八 | 四六四六七四七七 |
| 同 十年度 | 三〇二一五八八五〇 | 二五二五三四七〇八 | 四九六二四一四二 |
| 同 十一年度 | 二九九〇四四四九八 | 二四八八七〇五二七 | 五〇一七三九七一 |
| 同 十二年度 | 三五五〇四八一三九 | 二八二一一八六四四 | 七三九二九四九四 |
| 同 十三年度 | 三一六二七四二六九 | 二六二六一二七九一 | 五〇六六六四七八 |

備考 昭和七年度以降同十二年度迄ハ決算額、昭和十三年度ハ

豫算額

昭和七年度以降滿鐵事業費一覽表

| | |
|-------|------------|
| 昭和七年度 | 一六一三三、六五五 |
| 同八年度 | 二九一七二、一七二 |
| 同九年度 | 七〇、二七〇、六三二 |
| 同十年度 | 五五九五〇、二七二 |
| 同十一年度 | 五、七四九、〇〇三 |
| 同十二年度 | 五〇、二八〇、〇一三 |
| 同十三年度 | 六九五、一九七、七二 |

備考 昭和七年度以降昭和十二年度迄ハ決算額、昭和十三年
度ハ豫算額

滿鐵所管線營業籽程一覽

| | |
|-------------|----------------------------|
| 昭和九年九月末現在 | 五 一 八 七 ・ 四 |
| 同 十年九月末現在 | 七 四 二 〇 ・ 二 |
| 同 十一年十一月末現在 | 八 八 七 九 ・ 四 |
| 同 十二年十二月末現在 | 九 一 九 八 ・ 〇 |

滿鐵資產總額調

大正元年度末

〃 五 〃
 〃 一〇 〃
 昭和元 〃
 〃 五 〃
 〃 六 〃
 〃 七 〃
 〃 八 〃
 〃 九 〃
 〃 〇 〃
 〃 一 〃
 〃 一 〃
 〃 二 〃

二四九六九四
 二八九五〇四
 六四九六〇六
 八四五七四九
 一〇六二八〇四
 一〇〇三〇六五
 一、二一七八六二
 一、三二四九一五
 一、五五九四一〇
 一、七六七二七〇
 一、九二九六二六
 二、一一九四〇二
 千圓

滿鐵社員數調

| 年度別 | 日本人 | 滿人 | 合計 |
|--------|---------|---------|---------|
| 大正元年度末 | 一、九〇五人 | 八、五七〇人 | 二〇、四七五人 |
| 〃 五 〃 | 一、四六七六 | 一〇、五二六 | 二五、二〇二 |
| 〃 一〇 〃 | 一、四五六四 | 一、四七五七 | 三六、三三一 |
| 昭和一〇 | 二〇、五七二 | 一、四五九六 | 三五、一六八 |
| 〃 五 〃 | 二、八二四 | 一、二、一一七 | 三、九四一 |
| 〃 六 〃 | 二、〇三八 | 一、〇、五〇六 | 三、〇六三 |
| 〃 七 〃 | 二、三、一四 | 一、〇、三九一 | 三、三、七〇五 |
| 〃 八 〃 | 二、九三五五 | 一、〇、四三〇 | 三、八、七八五 |
| 〃 九 〃 | 三、四、二四〇 | 一、一、一一五 | 四、五、三五五 |
| 〃 一〇 〃 | 四、一、三四五 | 一、二、二八六 | 五、三、六三一 |
| 〃 一 〃 | | | 五、四、〇〇五 |
| 〃 一 〃 | | | 五、九、七二二 |
| 〃 一 〃 | | | 一、六、八八八 |
| 一二年度末 | | | 一、六、八八八 |

任退社
好期
和十月
六月
二十
二日
任

昭和二十二年六月二十二日
南滿洲鐵道株式會社
第三十號
勅令第一四二號

○南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件（勅令第三九、四六、七）

第一條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社ヲ設立セシメ滿洲地方ニ於テ鐵道運輸業ヲ營マシム

第二條 會社ノ株式ハ總テ記名ト爲シ日支兩國政府及日支兩國人ニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得（大正八、九、七、二、八號ヲ以テ改正勅令）

第三條 日本政府ハ滿洲ニ於ケル鐵道其ノ附屬財產及炭坑ヲ以テ其ノ出資ニ充ツルコトヲ得

第四條 會社ハ新ニ募集スル株式總額ヲ數回ニ分ツテ募集スルコトヲ得但シ第一回募集額ハ總額ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 株金ノ第一回ノ拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得第五條ノ二 政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得（昭和二、八、三、四號ヲ以テ追加勅令）

第五條ノ三 會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得（昭和二、八、三、四號ヲ以テ追加勅令）

第六條 會社ハ本社ヲ大連市ニ支社ヲ東京市及新京ニ置ク（明治四〇、

勅令第二二五號九及昭ヲ和一テ改正、一八）

第七條 會社ニ總裁一人、副總裁一人、理事四人以上、監事三人乃至

五人ヲ置ク（勅令第六一〇七、四號及昭和一四、六、九號、同勅令第一七八號

ヲ以テ）

第八條 總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス（勅令第六八、九號、二、八、

四、一、八、勅令第一七〇、八號ヲ以テ改正）

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職

務ヲ行フ（大正六、勅令第七二〇、四號ヲ以テ九號及昭和一四、六、一、八、

勅令第一七、八、改正）

總裁及副總裁事故アルトキハ政府ハ理事ノ一人ヲシテ總裁ノ職務ヲ

代理セシム（明治四、一、五、勅令第一〇、四號及昭和一四、六、一、八、正

勅令第一七、八、改正）

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌ス（大正六、七、八、九、

四、六、一、八、勅令第一七、八、改正）

監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス（テ大正六、七、八、二四、一勅令第八九號一ヲ以テ追加）

第九條 總裁及副總裁ハ勅令ヲ經テ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ五箇年ト

ス（大正四號及七、八、六、一、八、九、勅令第一七、八、號一ヲ以テ改正）

理事ハ百株以上ヲ有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ四箇年ト

トス（昭和四、六、八、一、七、號一ヲ以テ改正）

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ三箇年トス

第十條 總裁、副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム（大正

七、二、八、四、勅令第六、八、九、一、八、號一、同、八、一、七、八、號一ヲ以テ改正）

第十一條 總裁、副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務

又ハ商業ニ従事スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ

限ニ在ラス（大正六、七、二、八、四、勅令第一八、九、號一、同、八、一、七、八、號一ヲ以テ改正）

第十一條ノ二 會社カ一年ヲ營業年度ト定ムル場合ニ於テ當該營業年

度ノ利益配當ヲ確實ニ爲シ得ヘキ見込アルトキハ其ノ營業年度經過

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including names and dates like '昭和二十一年' and '東京市'.)

前一回ヲ限り一定ノ時期ニ於テ政府以外ノ株主ニ對シ其ノ拂込金額
 ニ見込配當率ノ半ヲ乘シタル金額ヲ分配スルコトヲ得但シ其ノ分配
 金額ハ前營業年度繰越金額以内タルコトヲ要ス(明治四五年三三
 號ヲ以テ追加六八〇勅令第一七八號ヲ以テ改正)
 前項ノ規定ニ依リ分配シタル金額ハ當該營業年度ノ計算ニ付テハ之
 ヲ會社財産ト看做シ株主ノ異動ニ拘ラス其ノ計算ニ基キ政府以外ノ
 株主ニ配當スル金額ヨリ之ヲ控除ス(明治四五年三三號ヲ以テ追加
 一〇號ヲ以テ改正)
 第三〇號ノ三會社カ社債ヲ募集スルトキハ數回ニ分チテ其ノ拂込ヲ
 爲サシムルコトヲ得(明治四三九號ヲ以テ追加)
 社債總額ハ拂込株金額ノ二倍ニ至ルコトヲ得(明治四三號ヲ以テ追
 加)
 勅令第九三號ヲ以テ改正
 第十一條ノ四社債ノ募集及定款ノ變更ハ總資本ノ半額以上ニ當ル株
 主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス(明治四二二號ヲ以テ
 追加)

前一回ヲ限り一定ノ時期ニ於テ政府以外ノ株主ニ對シ其ノ拂込金額
 ニ見込配當率ノ半ヲ乘シタル金額ヲ分配スルコトヲ得但シ其ノ分配
 金額ハ前營業年度繰越金額以内タルコトヲ要ス(明治四五年三三
 號ヲ以テ追加六八〇勅令第一七八號ヲ以テ改正)
 前項ノ規定ニ依リ分配シタル金額ハ當該營業年度ノ計算ニ付テハ之
 ヲ會社財産ト看做シ株主ノ異動ニ拘ラス其ノ計算ニ基キ政府以外ノ
 株主ニ配當スル金額ヨリ之ヲ控除ス(明治四五年三三號ヲ以テ追加
 一〇號ヲ以テ改正)
 第三〇號ノ三會社カ社債ヲ募集スルトキハ數回ニ分チテ其ノ拂込ヲ
 爲サシムルコトヲ得(明治四三九號ヲ以テ追加)
 社債總額ハ拂込株金額ノ二倍ニ至ルコトヲ得(明治四三號ヲ以テ追
 加)
 勅令第九三號ヲ以テ改正
 第十一條ノ四社債ノ募集及定款ノ變更ハ總資本ノ半額以上ニ當ル株
 主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス(明治四二二號ヲ以テ
 追加)

第二十二條 附立聯合會...
 第二十一條 附立聯合會...
 第二十條 附立聯合會...
 第十九條 附立聯合會...
 第十八條 附立聯合會...
 第十七條 附立聯合會...
 第十六條 附立聯合會...
 第十五條 附立聯合會...
 第十四條 附立聯合會...
 第十三條 附立聯合會...
 第十二條 附立聯合會...
 第十一條 附立聯合會...
 第十條 附立聯合會...
 第九條 附立聯合會...
 第八條 附立聯合會...
 第七條 附立聯合會...
 第六條 附立聯合會...
 第五條 附立聯合會...
 第四條 附立聯合會...
 第三條 附立聯合會...
 第二條 附立聯合會...
 第一條 附立聯合會...

○南滿洲鐵道株式會社定款

第一章 總則

第一條 本會社ハ南滿洲鐵道株式會社ト稱シ明治三十九年勅令第四百十

二號ニ依リ日本帝國政府ノ命令ヲ遵奉シテ設立スルモノトス

第二條 本會社ノ株主ノ責任ハ其ノ株式ノ金額ヲ以テ限度トス

第三條 本會社ハ本社ヲ大連市ニ、支社ヲ東京市及新京ニ置ク (明治四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六)

臨時株主總會及昭和一二六一九
 定時株主總會ノ決議ニ依リ改正

第四條 本會社ノ目的ハ左ノ如シ

一、滿洲ニ於テ左ニ掲クル鐵道ノ運輸業ヲ營ムコト

一、大連 長春間鐵道

一、南關嶺 旅順間鐵道

一、大房身 柳樹屯間鐵道

一、大石橋 營口間鐵道

一、煙臺 煙臺炭坑間鐵道

一、蘇家屯 撫順間鐵道

一、奉天 安東縣間鐵道
 一、鐵道ノ便益ノ爲左ノ附帶事業ヲ營ムコト
 一、鑛業殊ニ撫順及煙臺ノ炭坑採掘
 一、水運業
 一、電氣業
 一、倉庫業
 一、鐵道附屬地ニ於ケル土地及家屋ノ經營
 一、其ノ他政府ノ許可ヲ得タル營業

第五條 本會社ノ資本ハ金八億圓トス但シ第一回ノ株式募集額ハ日本帝國政府持株ノ外金二千萬圓トシ第二回以後ハ漸次必要ニ應シ株主總會ノ決議ニ依リテ募集スルモノトス
大正九、四、一六及昭和八、三、六
臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正

第六條 本會社ノ公告ハ本社所在地ニ於テ關東局カ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙並支社所在地ニ於テ所轄裁判所カ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テスヘシ
明治四〇、四、一六及大正八、五、三
臨時株主總會及
昭和一一、三、六一九
定時株主總會ノ決議ニ依リ改正

一、奉天 安東縣間鐵道
 一、鐵道ノ便益ノ爲左ノ附帶事業ヲ營ムコト
 一、鑛業殊ニ撫順及煙臺ノ炭坑採掘
 一、水運業
 一、電氣業
 一、倉庫業
 一、鐵道附屬地ニ於ケル土地及家屋ノ經營
 一、其ノ他政府ノ許可ヲ得タル營業

第五條 本會社ノ資本ハ金八億圓トス但シ第一回ノ株式募集額ハ日本帝國政府持株ノ外金二千萬圓トシ第二回以後ハ漸次必要ニ應シ株主總會ノ決議ニ依リテ募集スルモノトス
大正九、四、一六及昭和八、三、六
臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正

第六條 本會社ノ公告ハ本社所在地ニ於テ關東局カ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙並支社所在地ニ於テ所轄裁判所カ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テスヘシ
明治四〇、四、一六及大正八、五、三
臨時株主總會及
昭和一一、三、六一九
定時株主總會ノ決議ニ依リ改正

第二章 株式

第七條 本會社ノ株券ハ總テ記名式トシ一株ヲ金五十圓トス（大正四六

和四六二〇定時株主

總會ノ決議ニ依リ改正）
第八條 本會社ノ株券ハ左ノ六種トス（昭和四六二〇及同八六二〇定

一 株券 十株券 五十株券

一百株券 一千株券 一萬株券

第九條 本會社ノ株券ニハ社名、登記年月日、資本ノ總額、一株ノ金額、

拂込ノ金額及番號ヲ記載シ總裁之ニ記名調印スルモノトス（大正六八

五三竝同九四一六臨時株主總會及昭和四

六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ改正）

第十條 第二回以後ノ株金拂込ハ事業ノ必要ニ應シ總裁其ノ拂込金額及

期限ヲ定メ少クトモ六十日前ニ各株主ニ之カ通知ヲ發スヘシ（明治四

九四一六臨時株主總會、大正四六一九定時株主總會、大正六八二五、同八五三、同

第十一條 株主拂込ノ期日ニ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ其ノ拂込ムヘ

キ金額ニ對シ金百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵收ス

第十二條 第一回株金拂込期日後十五日ヲ經テ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ三十日以内ニ拂込ムヘキ旨ノ催告ヲ爲シ期限ニ至リ仍ホ拂込ヲ爲ササルトキハ本會社ノ株主タル權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ先ニ拂込ミタル證據金ハ之ヲ還付セス

第十三條 第二回以後株金拂込期日後十五日ヲ經テ拂込ヲ爲ササルトキハ三十日以内ニ其ノ拂込ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ株主カ其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ十五日以内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發シ最先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得スルモノトス讓渡人ニ於テ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競賣ニ附シ其ノ金額力滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其ノ不足額ヲ辨濟セシムルモノトス若シ從前ノ株主カ十四日以内ニ之ヲ辨濟セサルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其ノ辨濟ヲ請求スルモノトス

本會社ノ株主タル者ハ其ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得
第一回株金拂込期日後十五日ヲ經テ其ノ拂込ヲ爲ササルトキハ三十日以内ニ拂込ムヘキ旨ノ催告ヲ爲シ期限ニ至リ仍ホ拂込ヲ爲ササルトキハ本會社ノ株主タル權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得
第二回以後株金拂込期日後十五日ヲ經テ拂込ヲ爲ササルトキハ三十日以内ニ其ノ拂込ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ先ニ拂込ミタル證據金ハ之ヲ還付セス

其旨ハ...

得方...

并定...

第十...

第十...

第十...

第十...

第十...

第十...

第二十...

昭四...

昭四...

株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ株

券ニ記載スルニ非サレハ本會社ニ對シテ其ノ效力ナキモノトス

第十七條 株券ヲ毀損亡失シタル株主ハ其ノ事由ヲ詳記シ本會社ノ認ム

ル二人以上ノ保證人連署ノ證書ヲ差出シ新株券ノ交付ヲ請求スルコト

ヲ得但シ亡失ノ場合ニ於テハ請求者ノ費用ヲ以テ其ノ旨ヲ公告シ其ノ

公告ノ日ヨリ六十日ヲ經ルモ異議ヲ申立ツル者ナキトキニ限り新株券

ヲ交付スルモノトス

第十八條 株券ノ種類ヲ變更セントスル者ハ其ノ株券ニ請求書ヲ添ヘテ

之ヲ差出スヘシ

第十九條 株券ノ名義書替、新株券ノ交付及株券種類ノ變更ニ付テハ本

會社ノ定ムル手数料ヲ徴收ス

第二十條 本會社ハ定時總會前三十日ヲ超エサル期間及毎年十一月二十

日ヨリ十二月十日ニ至ル二十一日間株式ノ名義書替ヲ停止スヘシ（明

治昭四六二ニ定時株主總會及大正九四一六臨時株主總會及

昭四六二ニ同八六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ改正）

第二十六條 總會ノ議事ハ豫メ通知シタル事項ノ外ニ涉ルコトヲ得ス（

大正九四一六臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正）

第二十七條 總會ノ日時及場所ハ總裁之ヲ定メ少クトモ二週間以前ニ株主ニ之カ通知ヲ發スヘシ（明治四〇四一六正六八二五同八五三臨時決議ニ依リ改正）

第二十八條 總會ノ議長ノ職務ハ總裁之ヲ行フ（大正六八二五同八五三六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ改正）

第二十九條 株主ハ本會社ノ株主ニ限り代理ヲ委託スルコトヲ得但シ其ノ委任狀ハ本會社ニ差出スヘシ

第三十條 總會ノ議長ハ株主トシテ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ妨ケス
第三十一條 總會ノ決議ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲スモノトス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十二條 社債ノ募集及定款ノ變更ハ總資本ノ半額以上ニ當ル株主出

席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス（明治四〇四一六臨時株主）
總會ノ決議ニ依リ改正

前項ノ場合ニ於テ出席株主定數ニ充タサルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲シ各株主ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一箇月以内ニ第二回ノ總會ヲ招集スヘシ（大正九四一總會ノ決議ニ依リ改正）

第二回ノ總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第三十三條 總會議事ノ要領ハ總會議事録ニ記載シ議長ハ總會ニ出席シタル重役ト共ニ署名捺印スヘシ

第三十四條 總會ノ議長ハ會議ヲ延期シ會場ヲ變更スルコトヲ得但シ延期會議ノ議事ハ前會議ニ於テ議了セサリシ事項ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

第五章 重役

第三十五條 本會社ノ重役ハ左ノ如シ（大正六八二五同八五三臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正）
總會及昭和四六二〇定時株主總

第四十條 監事ハ會社ノ業務ヲ監査スルモノトス
 大正六八二五臨時株主總會ノ決議ニ依リ追加
 第四十一條 總裁、副總裁及理事ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ在任
 中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得サルモノトス
 大正六八二五臨時株主總會及昭和
 第四十二條 總裁ハ定款及總會ノ決議ヲ依リ改正
 大正六八二五臨時株主總會及昭和
 名簿及社債原簿ヲ支社ニ備ヘ置クヘシ
 大正六八二五臨時株主總會及昭和
 六一九定時株主總會ノ決議ニ依リ改正
 大正六八二五臨時株主總會及昭和
 第四十三條 總裁ハ定時總會ノ會日ヨリ七日前ニ左ノ書類ヲ監事ニ提出スルコトヲ要ス
 大正六八二五臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正
 一、財産目録
 二、貸借對照表
 三、事業報告書
 四、損益計算書

監事ハ會社ノ業務ヲ監査スルモノトス
 大正六八二五臨時株主總會ノ決議ニ依リ追加

第四十一條 總裁、副總裁及理事ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ在任
 中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得サルモノトス
 大正六八二五臨時株主總會及昭和

第四十二條 總裁ハ定款及總會ノ決議ヲ依リ改正
 大正六八二五臨時株主總會及昭和

名簿及社債原簿ヲ支社ニ備ヘ置クヘシ
 大正六八二五臨時株主總會及昭和

六一九定時株主總會ノ決議ニ依リ改正
 大正六八二五臨時株主總會及昭和

第四十三條 總裁ハ定時總會ノ會日ヨリ七日前ニ左ノ書類ヲ監事ニ提出スルコトヲ要ス
 大正六八二五臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正

一、財産目録
 二、貸借對照表
 三、事業報告書
 四、損益計算書

監事ハ會社ノ業務ヲ監査スルモノトス（大正六八二五臨時株主總會ノ決議ニ依リ追加）

第四十一條 總裁、副總裁及理事ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ在任

中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得サルモノトス（大正六八二五同八五三臨時株主總會及昭和）

第四十二條 總裁ハ定款及總會ノ決議録ヲ本社及支社ニ備ヘ置キ且株主

名簿及社債原簿ヲ支社ニ備ヘ置クヘシ（大正六八二五同八五三臨時株主總會及昭和四六二〇同）

第六十一條 定時株主總會ノ決議ニ依リ改正

第四十三條 總裁ハ定時總會ノ會日ヨリ七日前ニ左ノ書類ヲ監事ニ提出スルコトヲ要ス（大正六八二五同八五三臨時株主總會及昭和）

一、財産目錄

二、貸借對照表

三、事業報告書

四、損益計算書

五、準備金及利益金ノ配當ニ關スル議案

第四十四條 總裁ハ定時總會ノ會日前ニ前條ニ掲ケタル書類及監事ノ報告書ヲ本社ニ備フルコトヲ要ス（同上）

第四十五條 總裁ハ第四十三條ニ掲ケタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス（同上）

總裁ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス（同上）

第四十六條 監事ハ總裁カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス（同上）

第四十七條 監事ハ何時ニテモ總裁ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及會社財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得ルモノトス

第六章 監理官

第四十八條 南滿洲鐵道株式會社監理官ハ何時ニテモ事業ノ施設ヲ監査シ會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得ルモノトス

監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得ルモノトス

監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得ルモノトス但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第七章 會計

第四十九條 本會社ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル（明治四五年三十一臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正株主總會ノ決議ニ依リ追加）

第五十條 本會社ハ資本ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツルモノトス

前項以外ノ準備積立金ニ付テハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條ノ二 役員賞與金及交際費ハ当期純益金ノ百分ノ二以内トス（昭和四六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ追加）

第五十一條 株主配當金ハ六月一日現在ノ株主名簿ニ依リ株主ニ之ヲ拂

渡スモノトス（明治四五年三十一臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正株主總會ノ決議ニ依リ追加）

第五十二條 本會社ハ當該營業年度ノ利益配當ヲ確實ニ爲シ得ヘキ見込アルトキハ其ノ營業年度經過前一回ヲ限り政府以外ノ株主ニ對シ其ノ

拂込金額ニ見込配當率ノ半ヲ乘シタル金額ヲ分配スルコトヲ得ルモノトス但シ其ノ分配金額ハ前營業年度繰越金額以内タルコトヲ要ス（明治四一、一、一）
 四五六二二定時株主總會ノ決議ニ依リ追加、大正六八二五同一〇一、一、一）
 二五臨時株主總會及昭和四六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ改正（明治四一、一、一）
 前項ノ規定ニ依ル分配金ハ毎年十二月一日現在ノ株主名簿ニ依リ之ヲ拂渡スモノトス（明治四一、一、一、二五臨時株主總會ノ決議ニ依リ追加、大正六八二五同一〇一、一、一）
 前二項ノ規定ニ依リ拂渡シタル分配金ハ當該營業年度ノ會社ノ計算ニ付テハ之ヲ會社財産ト看做シ定時總會ニ於テハ此ノ計算ニ基キ利益ノ配當ヲ決議ス但シ政府以外ノ株主ニ對スル利益配當金ノ拂渡ハ株主ノ異動ニ拘ラス其ノ金額ヨリ第一項ノ規定ニ依リ分配シタル金額ヲ控除シタル殘額ノ拂渡ニ依リ之ヲ爲スモノトス（明治四一、一、一、二五臨時株主總會ノ決議ニ依リ追加、大正六八二五同一〇一、一、一、二五）
 第五十三條 每營業年度ニ於ケル利益配當力株主ノ拂込金ニ對シ年六分ノ割合ヲ超過セサルトキハ日本帝國政府ノ持株ニ對シ配當ヲ爲スヲ要セス

支那國政府ノ持株ハ日本帝國政府ノ持株ニ準シ之ヲ取扱フモノトス（
大正六八二五臨時株主
總會ノ決議ニ依リ改正）

第五十四條 鐵道ノ改築又ハ附帶事業ノ經營ノ爲發行スル社債及該社債
ヲ整理償還スル爲發行スル社債ニ對シテハ日本帝國政府ヨリ其ノ利子
支拂ノ保證ヲ受ケ仍ホ必要アラハ元金支拂ヲ保證セララルコトアルヘ
シ

日本帝國政府ヨリ保證ヲ受クヘキ社債ノ總額ハ拂込株金額ノ二倍以內
ニシテ資本總額ヲ超過セサルモノトス（明治四三三二五臨時株主
總會ノ決議ニ依リ改正）

第五十五條 前條第一項ノ趣旨ニ依リ發行スル社債ニ對シテハ日本帝國
政府ヨリ其ノ社債ノ利子ニ相當スル金額ヲ補給セララルモノトス
株主ノ拂込金ニ對スル利益配當年六分ノ割合ヲ超過スルニ至リタルト
キハ其ノ超過ノ金額ハ先ツ社債ノ利子ニ充當ス此ノ場合ニ於テハ前項
補給金ハ該充當額ヲ控除シテ之ヲ下付セララルモノトス

第五十六條 本會社ノ利益力前條ノ社債利子ヲ支拂ヒ尙剩餘アルトキハ

該殘額ハ總株式ノ各拂込高ニ對シ配當割合均一ニ至ルマテ之ヲ日支兩國政府持株ニ配當スルモノトス但シ日支兩國政府持株ニ對スル利益配當力年四分四厘三毛ノ割合ニ達シタルトキハ株主ノ拂込金ニ對シ年四分ノ割合ヲ超エサル範圍内ニ於テ更ニ第二配當ヲ爲スコトヲ得ルモノトス日支兩國政府持株ニ對スル利益配當力年四分四厘三毛ノ割合ヲ超ユルニ至リタルトキハ其ノ超ユル割合ヲ限度トシ株主ノ拂込金ニ對シ年二分ノ割合ヲ超エサル範圍内ニ於テ第二配當ヲ增加スルコトヲ得シ大正三六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ但書追加、大正八五三及同九一〇臨時株主總會及昭和四六二〇同八六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ
依リ
改正

政府持株ニ對スル利益配當ハ毎年七月三十一日之ヲ拂渡スモノトス（昭和八六二〇定時株主總會ノ決議ニ依リ追加）

第五十七條 第五十五條ニ規定シタル日本帝國政府ノ補給金ハ之ニ年六分ノ割合ノ利子ヲ附シ之ヲ毎年元金ニ加算シ日本帝國政府ニ對スル本

會社ノ債務トス（大正三六一四定期株主）

本會社ノ總株式ニ對スル利益配當力年一割ノ割合ヲ超過スルニ至リタルトキハ其ノ超過額ハ前項債務ノ償還ニ充ツルモノトス（大正九四一四一
一臨時株主總會及昭和四六二〇）
定期株主總會ノ決議ニ依リ改正

第八章 設立費用

第五十八條 本會社ノ設立費用ハ金五萬圓ヲ限度トス
前項金額中政府ノ立替ニ係ルモノハ政府ニ之ヲ返納スルモノトス

附則

第五十九條 本會社ノ資本中昭和八年三月六日臨時株主總會ノ決議ニ依リ増加シタル資本ノ内金六千萬圓ニ對スル株式一百二十萬株ハ額面以上ヲ以テ發行スルモノトス但シ數同ニ分チ之ヲ募集スルコトヲ妨ケス
（大正九四一六臨時株主總會及昭和三六二〇定期株主總會並昭和八三六臨時株主總會ノ決議ニ依リ改正）

第六十條 削除（大正九四一六臨時株主總會ノ決議ニ依リ追加）
大正九四一六臨時株主總會ノ決議ニ依リ削除

附 則

第七條ノ改正ニ因ル株式分割ニ付テハ第四回募集株式ハ一株ヲ金五拾圓拂込濟株式及金貳拾五圓拂込濟株式各一株ニ分割シ第五回募集株式一株ヲ金貳拾五圓拂込濟株式二株ニ分割スルモノトス
前項ノ株式分割ヲ實行スル爲本會社ハ昭和四年七月一日ヨリ新株券ノ發行ヲ爲スニ必要ト認ムル期間ヲ限リ豫メ公告ヲ爲シテ株式ノ名義書替ヲ停止スヘシ（昭和四年六月二〇日定時株主總會ノ決議ニ依リ追加）

附 則

第五十六條ノ規定ニ依リ株主ノ拂込金ニ對シ第二配當ヲ爲スコトヲ得ル場合ノ政府持株ニ對スル利益配當ノ割合ハ昭和八年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル會計年度ニ在リテハ第五十六條中改正ニ拘ラス昭和八年七月十五日迄ハ政府ノ拂込株金ニ對シ年四分三厘、同年七月十六日以後ハ其ノ拂込株金ニ對シ年四分四厘三毛ノ割合ニ依リ計算シタルモノノ政府ノ拂込株金ニ對スル割合トス（昭和八年六月二〇日定時株主總會ノ決議ニ依リ追加）

司甲一七

昭和十三年六月十六日

内閣書記官長

内閣書記官

和

佐藤

進

進

昭和十三年六月十七日
昭和十三年六月十五日

内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

友

陸軍大臣

海

文部大臣

尾

遞信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙大藏司法商工三大臣請議昭和十一年勅令第五十八號中改正ノ件
ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十一年勅令第五十八號商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ實行ニ關スル件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年六月二十一日

内閣總理大臣

大藏大臣

司法大臣
商工大臣

勅令第四百三十六號
呈案附箋ノ通

法制局

法制局司第一七

六月拾壹日

司法省 民事甲第六一七號

昭和十三年六月十日

司法大臣 鹽野季彦

大藏大臣 池田成彬

商工大臣 池田成彬

內閣總理大臣公爵近衛文磨殿

商業組合法中改正法律ノ施行ニ件ヒ昭和十一年勅令第五十八號中改

主任 長野事務官

司法大臣 鹽野季彦
大藏大臣 池田成彬
商工大臣 池田成彬

司甲 一七

日本標準規格B列五號

13.6.11
務 藤

司
法
省

正ヲ要スルモノアリ

仍テ勅令案ヲ具シ閣議ヲ請フ

司
法
省

昭和十一年勅令第五十八號中左ノ通改正ス

第一條第一項中「商品券ノ發行者」ノ下ニ「（商業組合法第三條ノ

二ノ商品券ニ在リテハ、發行者タル商業組合及其ノ組合員）」ヲ

加ヘ「其ノ發行者ノ本店」ヲ「發行者ノ本店又ハ主タル事務所」ニ改ム

附
則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司
法
省

勅令整理由書

商業組合法中改正法律ノ施行ニ伴ヒ同法第三條ノ二ノ商品券ニ關シ
商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ實行ニ關スル勅令中改
正ヲ要スルモノアルニ由ル

參照

○商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ實行ニ關スル件

昭和十一年四月
勅令第五十八號
(總理司法大臣藏
高工大臣副署)

第一條 商品券ノ發行者ガ商品券ノ引換ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ其ノ引換ヲ停止シタルトキハ商品券ノ所有者ハ其ノ發行者ノ本店ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ實行ノ申立ヲ爲スコトヲ得前項ノ申立ニ對スル裁判ハ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

參照

○ 商業組合法

昭和七年九月
法律第五號
(總理大臣署名)

第三條ノ二 商業組合ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ組合員ノ
取扱商品ニ付商品券ヲ發行スルコトヲ得

參照

○商品券取締法

昭和七年九月
法律第三十八號
(總理大臣商
工大臣副署)

第二條 商品券ノ所有者ハ商品券ノ引換未
済ノ金額ヲ限度トシテ前條ノ供託物ニ付
他人ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ
有ス
前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ
勅令ヲ以テ之ヲ定ム